

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177400231		
法人名	沼田町		
事業所名	沼田町認知症高齢者グループホームなごみ		
所在地	雨竜郡沼田町旭町3丁目5番29号		
自己評価作成日	令和2年1月31日	評価結果市町村受理日	令和2年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0177400231-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節に合わせた外出を取り入れ、個々の希望も聞きながら外出先を決めています。年に1度は温泉施設に出かけ、小旅行のように出かける機会も設けています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「沼田町認知症高齢者グループホームなごみ」は、JR石狩沼田駅から車で数分の自然豊かな住宅地に立地している町営の1ユニット9名のグループホームである。居間と食堂を中心に、周りに居室や浴室などを配置した開放感のある造りで、利用者の身体状況の変化に合わせて車椅子の方も使いやすいように昨年トイレを改修するなど環境を整備している。居間の壁には、利用者の写真や町民芸術祭に出店した作品などが飾られている。地域交流では、隣接する町の福祉施設で開催される小学生の学芸会の出し物発表と一緒に見学したり、野菜の収穫祭やサクランボ祭り、七夕祭りなどに参加している。運営推進会議は、家族交流会や避難訓練を同日に開催することで多くの家族参加につなげている。管理者は、職員の意見や提案を運営やケアに反映させながら職場環境の整備に努めており、職員の離職率も少ない事業所である。また、管理者を中心に全職員で利用者一人ひとりの状況を把握してその人らしい生活ができるように支援し、本人の残存能力を活かせるような温かなケアを行っている。日々の散歩や買い物のほか、留萌方面の海や秩父別のローズガーデン、北竜町のひまわり見学など積極的に外出している。外出先で好きな食事を味わうなど、年間を通して楽しく過ごせるように工夫している家庭的な事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で話し合いをして意見を出し合って決めた理念を、施設内に掲示し、各自ネームプレートの裏に書き込んで実践するように意識付けをしている。	経営理念に「利用者が地域の人と、共に安心して暮らせる生活環境を提供します」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が入っている。職員は、ネームプレートや事業所内の掲示で常に確認して理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の福祉施設の行事へ参加したり、全町をあげての一大行事である夜高行燈祭りの見学、町民芸術祭への作品出品と見学、屋外での焼き肉を通して近所の方々とも交流を深めている。	近隣の福祉施設で開催される小学生の学芸会の出し物を楽しんだり、収穫祭やサクランボ狩りに参加している。ハーモニカやウクレレ演奏、読み聞かせのボランティアも訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて事業所の特徴を伝えるとともに、認知症の方への理解が深まるよう交流しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、行事と組み合わせながら参加しやすいよう工夫をしている。その都度意見を聞き、いただいた意見はその後のサービスに生かせるよう配慮しています。	避難訓練や家族交流会など、議題を工夫することで毎回数名の家族が参加している。役場職員や地域役員、議題に応じて消防署員なども参加して情報交換している。全家族に会議案内と議事録を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町で運営している施設のため、町の担当者とは顔なじみで意見交換が行いやすく、協力関係を築けている。	管理者は、書類の提出などで役場を訪問している。分からないことがあれば電話で確認するなど、普段から相談しやすい関係を構築している。施設長に相談して課題を解決することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関には施錠せず自由に外へ出られる状況。禁止の対象となる行為については、定期的にビデオ学習や外部への研修に参加し、全職員で理解できるよう取り組んでいます。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した「身体拘束排除マニュアル」を作成し、ビデオ研修などで再確認している。全体会議で身体拘束適正化委員会を開催し、全職員で理解を深めている。今後は、勉強会や身体拘束適正化委員会の資料を分かりやすく整理したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待防止に関する研修に参加し、全体会議で報告することで職員全員が理解できるよう取り組んでいます。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで施設利用者で制度を利用した実績がないため、制度の理解度は差があるものの、個々に資格取得をする中で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際の契約や重要事項説明書については、丁寧な説明を心掛けています。時間がたつてからでも、不明な点があればその都度説明を行い理解が図れるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際には、その都度最近の様子をお話して家族の意見もうかがうようにしています。家屋や本人からの意見は、ケアチェック表の備考欄に記入し職員全員が共有できるようにしています。	毎年、家族交流会でアンケートを実施している。家族の意見や要望の内容に応じて、ケアチェック表や連絡ノートなどに記録している。利用者の様子を少しでも多く伝えられるように、ホーム便りの発行なども検討していきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度全体会議を開催し、職員で話し合う機会を設けている。また、日常的にも気になることがあればその都度管理者が聞いて対応するようにしている。	全体会議に参加できない職員の意見も議題に応じて事前に聞き取り、会議に反映させている。職員の提案を受けて、現在試行段階として会議の開催時間を変更して実施している。職員は、利用者や行事などの役割を分担して担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員とコミュニケーションを図りながら、勤務状況や個々の努力を把握し、代表者へ報告している。代表者も週に数回は訪れ、状況を把握するようにしています。働きやす環境となるよう、給与水準の見直しなども行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修はすべての職員がまんべんなく参加できるように研修予定を作成しながら参加を促しています。内部でも堅守が行えるよう、ビデオ学習の教材も使用しながら研修の機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に出ることで同業者との交流が深まることもあるが、個人的な交流にとどまっている。近隣の福祉施設職員は顔なじみのため交流も多い。近隣施設合同で研修会を実施することもある。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に面談し、見学していただくことで不安なことや予防なども確認している。初期は会話を多く持つことで関係性を築けるように配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談を行い、家族が困っていることなどを聞いています。入所後も面会時に様子をお話ししながら関係づくりを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活状況などを聞き、ほかのサービス事業者とも検討しながら必要なサービスを提供するように心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かせるよう、お互いに「できること」を行うことで、お互いに必要な存在として関係が築けるよう配慮しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行い、家族とその都度情報を共有できるようにしています。また、家族の方が来所しやすい雰囲気を作るよう心がけています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人が来所しやすいように心がけている。また、これまで利用していた商店などなじみのお店へも継続して利用ができるよう支援しています。	近所に住んでいた知人が来訪したり、友人からクリスマスカードや誕生日のメッセージカードが届く利用者もいる。買い物時に知人と会って話をすることもある。家族と親戚の家に行ったり、お墓参りやお寺などに出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性には留意し、トラブルにならないよう配慮している。また、孤立してしまわないよう、利用者同士がかかわりあえるようなレクリエーションなども行い交流の場も設けています。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援経過は引継ぎを行い、新しい環境にも馴染みやすくなるよう配慮しています。サービス終了後も町でご家族と会った時には挨拶をし、近況の話をすることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から本人の思いなどを聞き取り、可能な限り実現に向けて努力しています。会話が困難な場合は、普段のしぐさや行動、表情などとともに家族の思いなどを考慮してこれまでの生活から本人が好むであろう状況を話し合っ、ケアを行うようにしています。	現在は、ほとんどの方が会話から思いや意向を把握することができる。利用開始時に生活歴などのフェイスシートを作成し、変化がなければ介護保険の更新に合わせて変更している。趣味や嗜好、本人の思いなどは職員間で口頭で情報交換することが多く、具体的に記録には残していない。	趣味や嗜好、本人の思いなどの情報をいつでも書類で確認できるように、フェイスシートなどを活用して記録化するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人や家族から生活歴などの情報を聞き取り、職員間で情報を共有している。サービス利用開始後も、会話の中から情報を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状況を見て、できることや興味のあることを把握し、それぞれができることを中心に取り組めるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向は大切にし、カンファレンスの中で様々な意見やアイデアを出すことで介護計画を作成している。利用者ごとに担当を決め、担当者がモニタリングを実施することで介護計画がよりよくなるよう努めています。	普段から家族の意向を聞き取り、利用者の担当職員を中心に評価を行い4か月ごとに介護計画を作成している。今後は、本人の意向を短期目標にも具体的に記入し、介護計画の「サービス内容」と分かりやすく連動させていきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は介護記録に沿ってパソコン入力している。パソコンは全職員が閲覧できる状態であり、共有しやすい。日々の気づきなどは、ケアチェック表の備考欄へ記入し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を踏まえてその時々で必要なサービスとなるよう、外出や受診の支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパー、病院、美容院など町内の施設を利用して。ボランティアによる本の読み聞かせなどの地域資源なども活用し、暮らしを楽しめるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の病院をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を実施している。専門科の受診が必要な際には、町外の病院への受診も行うが、かかりつけ医と相談しながら必要な医療が受けられるように支援しています。	全員が協力医療機関の往診を受けている。専門医の定期受診は家族が同行することが多いが、本人の状況に応じて職員が受診を支援して主治医と情報交換している。受診状況はパソコンに入力し、書面でも確認できるようにしている。	

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが、月2回の訪問診療の際に看護師へ相談し、時には電話にて看護師へ相談するなどして外来での受診も行っている。介護職員も日々利用者の健康状態を把握するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際には家族とともに病院へ行き、治療方針などを確認している。病院へは生活状況を伝えるなどして早期に退院できるよう病院と連絡を取りながら退院の支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師がいないため医療行為が発生しない範囲で可能な限りの支援を行っている。重度化した場合について、入所時に重要事項説明書にて説明を行い、状況に応じてその都度家族と話し合っている。	利用開始時に「重要事項説明書」に記載している重度化および見取りに関する指針を説明している。医療行為が常時必要になったり、口から食事が摂れなくなった時は事業所での対応が難しくなることを伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に救命講習を受講し、緊急時のマニュアル作成も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年に2回避難訓練を実施している。そのうち1回は地域の方々にも参加いただき協力体制についても確認を行っている。地震については倒れやすいものなど確認するなどしている。	消防署の協力を得て、年2回昼夜の火災を想定した避難訓練を実施し、地域住民も見守りや誘導で参加している。職員は救急救命講習を定期的に受講している。地震災害時の具体的な対応についての話し合いは今後の課題となっている。	利用者の状況に応じた地震時のケア別の対応について話し合い、マニュアルなどに綴り定期的に確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人への声掛けには言葉遣いにも注意し、尊敬の念をもって傷つけないよう配慮している。気になったことは職員同士声をかけ注意するようにしている。	利用者一人ひとりに合わせた声の大きさ、話す速度などを適切に使い分けている。会議の中で言葉遣いについて確認している。記録類は事務所内で記録し、個人情報の管理を適切に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示がしやすいよう普段から職員は利用者とかかわりを多く持つように心がけ、選択できるような質問をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は本人の要望を聞き、可能な限り本人のペースでやりたいことを中心に行うように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院の利用は定期的に行い、化粧の習慣がある方はできない部分を介助し楽しめるように支援しています。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みに合わせて量などを調整し提供している。外出して食事をしたり、出前を取って食事をするなど食事の提供方法も工夫して食事を楽しめるよう配慮しています。	蕎麦やカツカレーなどの出前を取ったり、外出した際にちらし寿司やラーメンなど利用者好みの食事を楽しんでいる。食材を切る、皮をむくなど利用者はできる範囲で調理に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事や水分量は記録しており、不足しがちな時には代替品を提供するなどして促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、一人ひとりの能力に応じて介助を行っています。必要時には歯科受診も行い口腔内の清潔が保持されるよう努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録は個別にしており、一人一人に合わせて排泄を促すなどしています。	個人のケアチェック表に排便、排尿の時間を記録している。夜間のみりハビリパンツやパッドを使用するなど、利用者の状況に合わせて自立に向けて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の促しや軽い運動など排便がスムーズになるよう一人一人に合わせて排便への働きかけを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	どの利用者も少なくとも週2回は入浴ができるよう記録を行いながら入浴を促しています。また、それぞれの気分やタイミングを見て声掛けを行っています。年に1度は温泉での入浴も楽しめるよう工夫しています。	日曜日以外を入浴日として、利用者の希望に応じて入浴時間や曜日を変更している。入浴順を変えたり、入浴後に好きな飲み物を用意するなどして楽しんで入浴できるように支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はゆったりと休めるよう日中に活動することを促しています。眠れないときには話を聞くなどして穏やかな時間となるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については個人ファイルに説明書を綴り保管して、いつでも確認できるようにしている。また、通院し処方薬が変更になった際にはその旨連絡ノートへ記入し全職員が把握できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことやできることを促し終了後にはお礼の言葉を述べるようにしている。外出する機会も設け気分転換が行えるよう支援しています。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物には日常的に外出している。夏場はそれぞれの希望を聞き、花の鑑賞や海浴いなど遠方へのドライブも行っている。	近隣を散歩したり、駅近くのスーパーマーケットに買い物に出かけている。冬季も天気の良い時は散歩に出かける利用者もいる。砂川や滝川の大型商業施設で買い物をしたり、冬季もドライブに行くなど、季節に関係なく外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者は事務所で金銭を管理している。少額は自己管理している利用者もいて、外出時など自らのお金で好きなものを購入するなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかけることができる。また、携帯電話を置いている方もおり、受信時には渡すなどして支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけを行いながらも、共用空間は装飾しすぎないようにしています。温度や湿度にも気を配りながら快適な空間となるよう配慮しています。	食卓テーブルを中心にした共用空間は、大きな窓からベランダ越しに四季を楽しむことができる。壁に利用者手作りの作品を飾っているほか、冬は手作りの雪だるまの装飾など季節に合った家庭的な温かみのある空間が作られている。昨年トイレを改修し、車椅子の方も使いやすいよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間がワンフロアのため一人になる空間は居室しかないですが、座席の位置などに配慮しながら居心地の良い空間となるよう配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室委には思い思いのものを持参していただき、自宅に近い雰囲気となるよう配慮しています。本人にとって居心地の良いものとなるよう、本人の好みに合わせた居室となっています。	利用者は、使い慣れたタンスやベッドなどの家具類、冷蔵庫などを持ち込んでいる。部屋の壁には、事業所で行われた運動会の表彰状や折り紙で作った花などが飾られており、利用者が安心して過ごすことができる馴染み深い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況の応じて介護機器を設置したり、家具の配置なども全体会議で話し合いながらその都度工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

作成日：令和 2年 3月 4日

市町村受理日：令和 2年 3月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年に2回の火災に対する避難訓練は実施しているが、その他の災害(地震など)に関しては、対応の周知が不十分である。	火災以外の災害に関して、様々な想定(入浴中・食事中・就寝中など)での対応を話し合い、定期的に確認できる機会を設けていく。	全体会議の中で話し合い様々な想定別のマニュアルを作成する。作成後は定期的に確認する機会を設けて、すべての職員間で共有する。	6か月
2	23	個々の趣味嗜好など職員間での共有が口頭で確認していることが多く、職員が入れ替わると周知しにくい状況となる。	すべての職員が共有しやすいよう、個々の思いや趣味嗜好を記録として残し、いつでも確認しやすい様に資料を整理する。	現在あるフェイスシートを活用して、個々の趣味嗜好、思いなどを記録として綴りいつでも確認できるファイルを作成する。	6か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。